



# 特定非営利活動法人 東京YWCAヒューマンサービスサポートセンター

## 会報

見守り

支え

伝え合う

私たちは、福祉・介護の仕事のゆたかさを広げる活動を推進します

29号  
2024年12月

2024年10月 理事会報告

東京都保育士等キャリアアップ研修（大島会場）報告

講師派遣研修（白十字会中堅研修）報告

福祉のしゃべり場 報告

会員交流広場 *Salon de Y Y*

### 福祉のしゃべり場 報告

2024年10月19日（土）13:30~15:00  
東京YWCA会館215室 参加者 8名

これまで支援者として活躍されてきたSさん、ご主人に認知症の症状が現れご自身も怪しいとおっしゃりながら、次回も生きていたら来たいですと語ってくれました。

卒業生ではないのですが、参加くださったKさん、訪問介護事業所閉鎖から、移られる職場が決まったとのこと。

訪問介護のヘルパー不足、事業所の閉鎖について身近にお話をききました。

しゃべり場に毎回参加され、ご両親の介護の報告をしてこられたMさんが、お母様を家族で看取り、葬儀が終わったばかりと話してくださいました。家族で支えあい、できる限り力を尽くして来たからこそ、清々しい笑顔で語られていた姿がとても素敵でした。しゃべり場でともに語り合う時間が、Mさんの力になったことをうれしく思いました。

「10月生まれのしゃべり場誕生会」ケーキやお茶を楽しんでお祝いしました。



### \*知床に行ってきました

### 会員交流広場 *Salon de Y Y*

HSSCの仲間と10月初旬に北海道へ！知床を知り尽くしたネイチャーガイドのさっちゃんと共に、大自然を満喫した旅となりました。山、湖、滝、海…天候によって変化するその表情の何と豊かなこと。野生のヒグマ、キタキツネ、鹿、シマフクロウ、遡上する鮭、等も見ることができました。知床五湖散策では、ヒグマたちの住いに私たちがお邪魔している感覚にちょっとドキドキ。森林の中を歩きながら、何千、何万年の単位で繰り返される自然の営みを学びました。釧路川源流でのカヌー体験では、弱く倒れやすい葦は、でも何度でも起きあがる。人間も葦のような弱い存在だけれど、人間だけが思考する力を与えられており、考えて起きあがることのできる。それをパスカルは、「人間は考える葦である」と表現した、と教えてもらいました。葦の茂みの傍らで、そんな話を聞くとなるほど！と納得。しばし、私たちも「考える葦」!! となって、自然と人間の共存や、自然保護に思いをはせたのでした。様々な体験を通して、人間も自然界の一部であることを実感し、大自然からのエネルギーに癒されました。日々の忙しさに振り回される中、ゆっくりと自分を取り戻す旅でもありました。 尾崎裕美子



能取湖サング草群 58万km<sup>2</sup>



一番長い直線道路 29.2 km

2024年10月5日

東京YWCA専門学校  
CWコース5回生同期会開催。  
卒業生20名 教職員4名  
参加。懐かしい教室で豊かな暖かい時間が流れました。



発行所 特定非営利活動法人 東京YWCAヒューマンサービスサポートセンター  
2024年12月発行 発行人：石井須美子 編集人：長尾恵理子 大庭 幸  
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台一丁目8番11号東京YWCA会館216室  
TEL 03-6273-7134 FAX 03-6273-7156 HP <http://ywca-hssc.org/>

東京YWCAヒューマン で検索 2024年12月25日~2025年1月5日 冬季休暇をいただきます。

### 会費・寄付金等振込先

年会費：正会員 3,000円/年

賛助会員 一口10,000円/年

団体会員 20,000円/年

◆株式会社 ゆうちよ銀行

記号10170 番号 80995501

◆三菱UFJ銀行 神田支店 口座番号

普通預金0138637

口座名義 特定非営利活動法人東京

YWCAヒューマンサービス

サポートセンター

## 2024年度上半期事業報告

東京 YWCA ヒューマンサービスサポートセンター

理事長 田島 誠一

10月22日理事会を開催し、上半期のふりかえりを行いました。上半期の事業実績は、講師派遣研修・保育士等キャリアアップ研修とも予算を下回る結果となっています。今後の見通しも明るいとは言えません。主な原因は、講師派遣事業では、福祉法人・事業所が、人手不足→仕事が回らない→研修に送りだす余裕はない…という負のスパイラルに陥っていることにあるようです。介護労働安定センターの調査によると、入職時研修を受けていない職員の早期離職率が高く、行きつく先は離職者のさらなる増加かも知れません。

保育士等キャリアアップ研修においては、受講者数の減少に加えて、保育現場の人材不足の影響があり、手軽に受講できるリモート方式の研修を受ける保育園が増えていることも要因として考えられます。対面研修にこだわり開催していますが、その結果、リピーターとなる保育園も複数あり、手ごたえを感じています。対面研修の参加者が集まりにくい状況が続くと思われませんが、対面研修の効果を伝えつつ、開催回数等の見直しも視野に入れなければならない状況です。

苦しい時だからこそ、職員の育成に力を入れることが必要です。目の前のことばかり見ていては、将来の目指す姿を見失います。法人・事業所への「営業」にあわせて講演会やしゃべり場などによる啓発事業に力を入れ、回復に向けた努力をしていきます。

## 東京都保育士等キャリアアップ研修 報告

(伊豆大島会場 2024年11月16日~17日実施)

伊豆大島で保育士等キャリアアップ研修の「食育・アレルギー対応」分野の研修が行われました。講師は、相模女子大学栄養学部健康栄養学科特任教授堤ちはる先生と北ノ山保育園看護師の植松明美先生でした。

大島町内に2園ある私立保育園から、20名の職員が参加され熱心な研修が行われました。理事長として、1日目朝から夕方まで参加してきました。

離島で働く職員が研修を受講するには困難があります。23区内で1日の研修を受けるためには3日間の旅程となり、職員配置や出張費などの困難があると園長さんからお聞きしました。

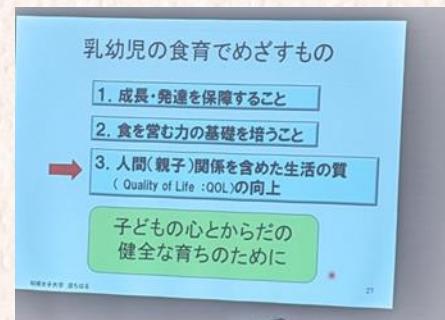
堤先生のお話は、とても明快でわかりやすく、とりわけ、乳児からの体と心の発達段階に応じた、子どもへの愛にあふれた内容には感銘を受けました。例えば、「手づかみ食は成長に必要な段階」「乳歯の奥歯が上下2本になるまでは奥歯ですりつぶしができない、だからこのような形態の食事が必要」…などです。発達段階を押さえて食事をしていかないと嫌いなものができちゃったり、呑み込みができずに口の中にいつまでも食物がとどまったりする、などが良くわかりました。

「何が何でも栄養が一番大事！」という言い方はされず、心と身体に大切なこととして教えていただきました。孤食ではなく、楽しく仲間と食べることなどがどれだけ大切なのかなどは感動的でした。

伊豆大島でのキャリアアップ研修は、今年度でいったん終了となります。

とても残念です。今回の研修を御縁にこれから何かしらお役に立てればとの思いを伝えてきました

東京 YWCA ヒューマンサービスサポートセンター 理事長 田島 誠一



## 講師派遣研修 白十字会中堅研修 報告

課題への対応力を養う「利用者理解 その人の歩んだ時代・人生への理解 人生紙芝居作成を通して」

講師 奥田 真美

2024年9月27日、10月18日

奥田氏は、高齢者の人生を聴き取り、「人生紙芝居」として表現するために、聴き取る過程、紙芝居作成のプロセスを通し、認知症利用者の支援に大きな成果をもたらし、紙芝居を地域や子どもたちへの平和教育として実践しています。

1回目の研修の冒頭にて、紙芝居の上映。初めて目にする紙芝居に引き寄せられ熱心に見つめる受講者。受講者からは、一度も会っていない方でもその人のことを身近に思うことができたという感想が聞かれました。続くワークショップでは、カレンダー作成や運動会の思い出話を体験し、居心地の良さや仲間意識が生じていたようでした。宿題に取り組み、互いの発表に耳を傾けあうことでの発見や気づきが生まれました。

2回目では、認知症ケアに人生理解が必要なこと。戦争体験がBPSD(認知症行動心理症状)となる例等、「聴くケア」を今後どのように生かしてゆけるのかなど受講者同士で話し合う時間が設けられ、活発な意見交換がありました。

理事 蛭原まゆみ

### 講師より 「気づきと成長を感じた研修会」

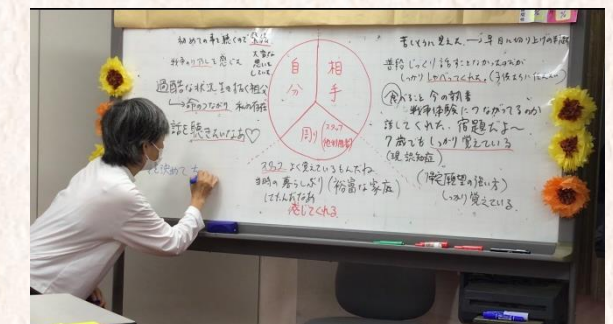
研修では体感を伴った理解を目指しました。

『運動会の思い出』を語り合うワークでは受講者から、「ソーラン節の踊り練習が大変」、「800メートル走の選手に選ばれた」、「親が作ってくれた弁当の唐揚げが絶品」等様々の思い出が語られ、自分の話に周りが耳を傾けてくれる心地良さと、エピソードに参むその人らしさに温もりを感じ、和やかな時間となりました。

宿題『利用者一人から戦争体験を聴き取る』には当初皆が負担感を表しましたが、全員が真面目に取り組み、研修時に素晴らしい報告が聞けました。認知症の方が意外と戦争中のことはしっかり覚えていたり、「戦争はやってはいけない」と言い切ったり、新たな一面を知ることができた喜びは、「戦争以外のことも聴いてみたい」という内発的動機を生み、「時間が取れないと思っただが、ちょっとした時間に聴き取りを重ねていくことは可能」という言葉には、私が勇気づけられました。

その人の人生をもっと知りたいという、高齢者介護の新たな醍醐味に気づき、「聴くケア」をいつも意識し、利用者に関わる介護職であることを願っています。

奥田 真美



### 受講者の振り返りシートの一部より

\* 高齢になると人にやってもらう立場になり、人の役に立つ機会が少なくなってしまう、戦争の話や伝承し、社会貢献に繋げていくことはとても重要

\* 帰りたいたと落ち着かない利用者になぜ動き出すのか、帰りたいたと思う心の中にはどのような思いを持っているのか話をたくさん聞いてみたい

\* 戦争体験といっても一括りにできず、いろいろお話を聴けるいい機会になりました。